

## 自ら考え判断する力を身につけた上で 「この場所で生きていたい」と考えるのは素晴らしいこと

学校としてのキャリア教育の目的は、自ら考え判断し、自らの人生を切り開いて行ける人間に育てることです。それを身につけた上で、自ら「この場所で生きていきたい」と考え、選択する人が出てくるのであれば、それはとても素晴らしいことだと思います。

職場体験に行ってきた成果は、すぐに表れる訳ではありません。しかし、実際の社会や仕事の現場で「あいさつ」や「礼儀」の大切さ、仕事の大変さに気付いた生徒たちは、やはり内面から変化してくるようになります。中には、体験の感想で「学校でやる勉強って大事なんだと気づいた」と話す生徒もおり、学校としては、こうした「気づき」をきっかけにして、生徒たちに自ら「頑張ろう」という気持ちを持たせていくことが大切だと考えています。同じ中学生でも、一人一人個性があり、得意不得意があり、すぐに環境に適応できる生徒もそうでない生徒もいます。受入企業の皆さんには「いろんな子がいるんだ」と意識して、生徒たちの学びを温かく見守っていただければ幸いです。

今回の職場体験にあたり、キャリア教育推進協議会には受入可能な企業のリスト提供や事前学習の講師派遣などをしていただきました。職場体験は、生徒たちにとって貴重な学びの機会となりますが、企業との連絡調整や保険加入、送迎などが必要となり、学校単独で実施すると負担が大きいのも事実です。貴重な機会をよりよいものにしていくためには、行政や企業から協力いただくことが不可欠ですので、今後の「地域ぐるみ」での体制づくりに期待をしています。



久慈市立夏井中学校 校長

火石 修さん

## 企業にも「地域を守っていく」視点が必要 体験を通して生まれる「地域とのつながり」が大切



三陸鉄道株式会社 久慈駅長

駒木 健次さん

三陸鉄道は、地域と密接な関わりを持って運行されています。そのため、地域に還元できることが有ればと、積極的に職場体験やインターンシップの受入を行っています。地域から人が減れば、地域にある仕事も成り立たなくなっていきます。企業も地域を守っていくために協力していかなくてはならないと思っています。

体験の受入にあたっては、車両の運行、車内販売による接客、車両や路線の維持管理など、三陸鉄道が行っている仕事全体が俯瞰できるような体験プログラムを作成しています。また、このようなプログラムを作ることは、自分たちの仕事を再認識できる良い機会にもなっていると感じています。

また、我々としても時間と労力をかけて受入をする以上は、生徒の皆さんに学校生活とはまた違う有意義な体験をしてもらい、しっかり学んでほしいという思いがあります。今後、学校と企業が互いに情報をフィードバックしていければ、より良い体験につながると思うので、キャリア教育推進協議会が学校との「つなぎ役」を担ってくれることを期待しています。

現在、三陸鉄道で運転士として活躍している社員の中にも、中学校の時に職場体験で来てくれた生徒がいます。就職という大きな決断をする上で、仕事の現場を見て大変さなども知っているというのは、本人にとっても企業にとっても大きなメリットになると思います。このような、体験を通してできる「地域とのつながり」を増やしていくことが、これからの地域を守っていくことにもつながっていくのではないのでしょうか。

## 夏井中学校 職場体験学習

職場体験学習は、現在市内の全中学校で実施されています。事業所等を訪問し、実際の仕事を通して体験学習を行うため、よりよい学びのためには、特に企業等の協力が不可欠です。7月4日～6日の3日間にわたり実施された夏井中学校の職場体験から、生徒たちの学びと学校側・企業側の視点を聞きました。



### やりがいを感じる仕事

県立久慈病院  
中田 優音さん

将来、医療関係の仕事に就きたいと思い、病院ではどんな仕事をしているのか知りたくて希望しました。看護師のほか、リハビリや栄養管理、検査科、薬剤科などを体験し、病院内にはさまざまな仕事があるのだと実感。看護師の体験では、患者さんに食事を運んだり、病室を回って話をしたりしました。患者さんと話すのは、普段友達と話す時とは違うので緊張したけれど、相手の目を見てハキハキ話すことを心がけました。

職員の皆さんは、常に患者さんのことを一番に考え、気を配っていました。体験前は、働くことは「生活のために」という感覚が強かったけれど、体験を通じて「患者さんのために」とやりがいを感じながら仕事をしている人がたくさんいるのだと気付きました。



### 大切なことを実感

久慈郵便局  
長岡 琴葉さん

家族が務めているので、どんな仕事をしているのか知りたくて郵便局を希望しました。

体験に行き、窓口立つ前に指導されたのが、あいさつや表情、身だしなみ、態度、言葉づかいなど、礼儀などの大切さです。「一人でも出来ていないと全体の評価が下がる」と言われて、学校でも習うことだけれど、仕事をする上でもそうなのだと思えました。

体験では窓口業務や郵便物の仕分けを行いました。窓口業務は、窓口の開いていない時間帯にも準備など多くの仕事があり、普段お客さんとしてきたときに見える仕事だけではないのだと知りました。仕分け作業は、自分が扱った郵便物が実際に誰かのところに届くと思うと、少し不思議な気分でしたが、嬉しかったです。



### 自分で考え動くように

鬼は内  
工藤 向日葵さん

ペットショップや牧場など動物関係の仕事に興味があったのですが、今回は体験先の選択肢になかったので、母が飲食店で働いている関係から「実際にどんな感じなんだろう」と思い、この体験を希望しました。

お店では接客のほか、片づけや食器洗いを体験。そば打ちやうどん作りもさせてもらいました。接客は、作業中でもお客さんが来たら最優先でしないといけないので、素早い切り替えが必要で想像以上に大変。でもお客さんの「ありがとう」という言葉や笑顔で帰る姿に達成感を感じました。体験の中で、お客さんを待たせないように「常に周りを意識」して「言われて動くのではなく自分で状況判断して動く」ようになれたので、今後の生活にも生かしていきたいです。



### 「人のため」に何かする喜び

元気の泉デイサービスセンター  
田澤 環太さん

施設では、利用者さんと話やレクリエーションをしたほか、掃除や洗濯など裏方の仕事も体験しました。

体験前に「利用者さんとのコミュニケーションが大切」と指導されました。その時は、それほど難しくないと思っていましたが、いざやってみると細かな気配りが必要で、大変なことだと気付きました。職員さんは、耳が遠い人には耳元で話したり、困っている人にすぐ気付いて対応してましたが、私にはそんな余裕がありませんでした。でも、最終的には自分なりに気配りをしながら仕事をできるようになったと思います。

体験を通して、感じたのは「人のために何かすることの喜び」。仕事は「ただ生きるために必要だからする」というだけではないのだと実感しました。

